

第11回「医療のより良い関係を考える会」

議 事 要 旨

1 日時： 平成15年6月26日(木) 17:00~19:15

2 場所： 都庁第一本庁舎33階 特別会議室N3

3 次第：

(1) 開会

(2) 委員出欠、資料確認

(3) 健康局長挨拶

(4) 議事

- ・提言案の検討について
- ・提言の周知広報について

(5) 各委員からのコメント

(6) 閉会

4 議事

(1) 提言案の検討について

事務局から資料説明

第2次修正案に対する修正意見と局の文書係での文書的なチェックをもとに修正をした結果、最終修正案を提示し、第2次修正案から最終修正案までのその修正部分について説明

意見交換

(ア) 副題(納得と信頼の医療を目指して)について

- ・本文で余り出てこない言葉を使うのは適切か。
- ・本文の「はじめに」のところに出てくる「患者中心の医療を目指して」にするかのどちらかにした方がよい。
- ・全体の表題としていいくらい提言の内容全部が当てはまると思うので、この副題はつけた方がよい。それでなければ、本文に副題を入れるべき。
- ・より良い関係というのは、結局納得と信頼に行き着くと思うので、この副題に問題はない。
- ・考える会は、患者中心の医療を実現する目的で設置されているので、その目的に沿った副題の方が望ましい。
- ・患者中心の方がインパクトがあると思う。
- ・この副題は、今までの経緯の中で、第3次修正版で納得と信頼の医療を目指してと厚みがでてきたのでわかりやすく非常によい。
- ・納得と信頼の医療というのは、非常に語呂がいいので考えられるが、納得というのが受身な言葉なので、患者中心の方がよい。でも、そうすると語呂が悪くなってしまいインパクトがなくなるので、そういう意味でどちらを選ぶかということになる。

- ・患者中心医療を目指してというのは、当たり前のことなので抵抗を感じる。
- ・副題がそんなに重要かなという気がする。提言の内容全部を考えて副題の言葉があてはまると言えばいいので、別に副題が本文になければいけないことはないと思う。
- ・納得と信頼という言葉は、提言の内容全体を網羅したような言葉になっていると思うのでこのままでよい。
- ・信頼という2文字で相互信頼関係を意味するのは困難だと思う。
- ・「目指して」は平仮名にした方がよい。

(イ) 本文について

(P2 2行目協働作業部分)

- ・協働作業の協働は共同ではないか。
- ・共同は、同じような役割に基づいて共にやるというふうに使われるのが一般的。協働の方は、英語でいうとコラボレーションで、違う役割のものが、一つの目的に向かって共に頑張っていくというようなニュアンスがある。
- ・医療関係では共同作業の方が一般的に使われている。
- ・対立の関係ではなくという言葉は、新しい未来に展望を持った提言という意味からいうと入れなくてもよい。
- ・医療というのは、患者と医師との協働作業ではなくて、協同行為の方が納得できるような感じを受ける。
- ・どちらの言葉を使っても、中身的に変質してしまっているという心配がないのなら、ごく普通に大体大方が使っている言葉、共同作業なら、共に同じでよい。
- ・協働は、多分法例用語ではないので、公文書的な漢字の使い方をするかが問題。協働作業という言葉を使うなら、かぎ括弧するか何かコメントをしないと意味がわかってもらえない可能性がある。医療を共同作業というより、行為の方が適切だと思う。
- ・協働の意味が一般の人に理解ができないのであれば、もっとわかりやすい言葉で、ガイドラインで使っている言葉がよい。

(P21 参考資料4、5)

- ・参考資料は、会全体の意見ではなく、ある2人の意見なので、提案した人の所属と氏名を入れた方がよい。
- ・都民が読んだ場合、名前を入れないと対照的な意見なので混乱しやすいと思う。
- ・参考資料だけ名前を入れたら、本文の委員の意見についても、言った人全ての名前を入れないと公平を失うので、名前を入れる必要はない。
- ・結局結論として、まとめずにあえて違う意見が出たけれども、載せることとしたと思うのでこのままでよい。

(P5 四角枠の 部分)

- ・医療機関選択のための資料というのは、幾つかあると思うので、一つだけあげると問題になる。

- ・医療機関選択のための資料については、発行元を入れた方がよい。
 - ・選択に資する資料、パンフレットというように一般名称を入れた方がよい。
 - ・読んだ人がわかりやすいように、一般化したような文章の方がよい。
- (P16 参考資料の患者(都民)と医療提供者の間の矢印 支援相談部分)
- ・支援というのは、当事者間で行われるようなことにはなじまないような気がする。
 - ・相談以外の支援というのは、具体的に想定されていない気がするので、相談の方がわかりやすい。

(P13 下から3行目 インシデント部分)

- ・非常に難しい言葉が出てきているが、具体的な説明を入れないとわからないと思う。

(P3 11行目)

- ・医療機関の広告は、平成13年4月から大幅な情報開示をしていいことになったため、そのあたりの情報提供を入れた方がよい。

(P26 参考資料6 下から8行目の具体策の案)

- ・お客様対応窓口という言葉は対応窓口の設置とした方がよい。

(P10 アの一番下の・部分)

- ・発生元と言うと、原因であるという感じにとられるので、非常に抵抗がある。発生元を削除するか表現を変えた方がよい。

- ・発生元というのは、原因があるというようなニュアンスになってしまうかもしれないので、その場でというようなニュアンスを入れる必要がある。

(P15 四角枠の の一番下の・部分)

- ・必要があるという、言葉として非常に弱いと思うので、一層の強化を図るとした方がよい。

(P15 四角枠 部分)

- ・意見の中核部分が、体言止で終わっているので何か変な気がする。

(2) 提言の周知広報について

事務局より参考資料4により説明

- ・7月中旬に健康局長から提言の手渡しを予定。同日プレス発表を行う予定。
- ・広報誌の掲載については、広報東京都の9月1日号に掲載予定。また、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、病院協会、関係団体の会報に掲載を依頼
- ・製本印刷については、1600部程度を考えている。送付先については別表のとおり。
- ・その他各種会議、イベント等で配布、ホームページ等に掲載

(3) 委員からのコメント

- ・東京都は「東京都医療改革」という看板を掲げているので、今後も看板は維持されるし、その看板に違わない施策をぜひ実施していただきたい。
- ・医療の問題というのは、一消費者、一市民が自分のものとして考え発言していく場があまりないと思うので、消費者運動のこれからの新しい切り口として委員の方の協力を

得ながら何か考えていきたい。

・今回の提言は、非常にある意味ではエッセンスとなっている。これをいかに生かすかというのが次の問題だと思うので、みんなで協力し合って先に進んでいけたらと思う。

・一言で言うと、この会にふさわしかどうかわからないけれども、こんなに楽しんでいいのかと思うくらい楽しかった。何もかも新鮮な中で、皆さんの協力があったこそ、ここまで来れたのかと思う。

・会が終わってしまうのは、残念なので例えば、1年後にボランティアでみんなが集まり提言したうちのどのくらいが実現したのかということ話し合う機会を持ってもいいのではないかと思う。

・我々自身は、医療と呼ばれる場所にはまだまだ希薄な参加の仕方だと思っているが、今後こういう会での話を十分検討し再度確認しながら、自分たちも十分な医療法人としての活動ができるよう努めていきたい。

・この会に出られこと、それからみなさんとお目にかかり議論できたことに感謝している。

・今後は、パンフレットとかあるいは、スタッフの充実とかそのようなところを進めていくことに取り組んでいきたい。

・患者の声相談白書の年次報告とか都立病院の新規診療科の開設をする時は、事前に東京都健康局並びに都立病院の共催で構わないので、医療シンポジウムを年に1回ぐらいは開催してほしい。

・いい勉強になりました。ありがとうございました。

・会は終わりましたが、今後中小の病院の特に幹部職員にどのように検討会の内容を伝えていくのかということが大きな課題である。

・これからもこのような機会を増やしていただきたい。この会を通じて医療に対する見方が変わり、たくさん勉強させていただいた。

・日本の医療はトップクラスなので変える必要はない。制度も非常によいがそれを運用する我々に変えるべき考えが多いと思う。したがって、日本の医療も直すべきところと直すべきでないところをよく考えないととんでもないことになる。

・今後、どうするかということが一番大事なことだと思う。この提言をどのように具体的に生かしていただくかについて、ぜひ東京都の方でしっかりやっていただきたいし、私どももその行方を見守っていきたいと思う。

(4) 閉会

別紙 第11回「医療のより良い関係を考える会」出席委員

医療を受ける者

伊永大輔 委員 (東京都保健医療計画推進協議会公募委員)

- 坂本憲枝 委員 (COML東京スタッフ)
清水鳩子 委員 (主婦連合会副会長)
西川圭子 委員 (東京都保健医療計画推進協議会公募委員)
藤野 充 委員 (東京都保健医療計画推進協議会公募委員)

医療に携わる者

- 木村佑介 委員 (元東京都医師会理事)
鈴木聰男 委員 (東京都医師会副会長)
渡邊儀一郎委員 (東京都歯科医師会理事)
桑原辰嘉 委員 (東京都薬剤師会常務理事)
野村勝子 委員 (東京都看護協会専務理事)

学識経験者

- 石館敬三 座長 (東京都結核予防会理事長)
小島正美 委員 (毎日新聞社編集委員)
藤田十四三委員 (元東京都監査委員)
藤田康幸副座長 (弁護士)